

一枚の絵から、つながる

千葉県立柏の葉高等学校 高橋 裕司

情報Cの授業内での実習は基本的に個人で行うものが多かった。そこで一人一人が作ったものを学年全体でつなげて一つの作品にできないかと思いアニメーションを題材に実習を行った。

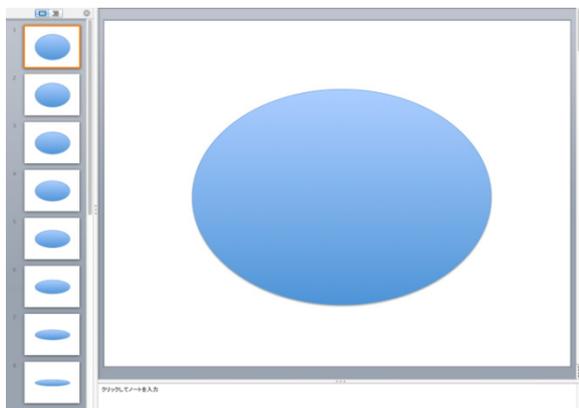
1. はじめに

アニメーション映像を作る上で、普段生徒が見ているアニメーションがどのようにできているのか、一連の作業工程をシンエイ動画株式会社のWebサイト内の「アニメーションができるまで」のサイトを参考に解説をした。一つの映像を完成させるためには、たくさんの作業工程とたくさんの人が関わっていることを理解した。

2. 一枚の静止画から動画へ

アニメーションが一枚一枚の静止画からできていることが理解できたところで、パワーポイントを使い、簡単なアニメーションの作成を行った。

一枚のスライドに適当な図形を描き、スライドをコピーして少しずつ図形を変えていく。この作業を数枚繰り返す。できたスライドを素早く切り替えると図形が動いているように見える。この実習において、長時間の映像となめらかな映像を作るには、たくさんのスライドが必要であることが理科できた。



3. アニメーション作成①

本来であれば、アニメーションの動画をオリジナルで作らせたいところだが、動画を作る技術はなく、今回は、「Google で、もっと ブラウザでアニメーションをつくらう」の300枚の画像を借りて色をつける作業を行った。300枚の絵を印刷し、生徒に色を塗ってもらう。色鉛筆、クレヨン、クレパス、クーピー、ポスカ、蛍光ペンなどで自由に絵に色をつけてもらった。この300

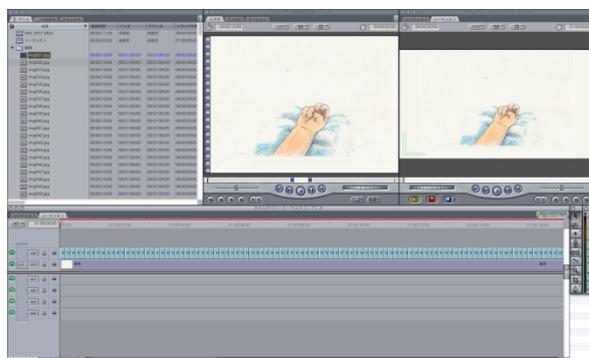
枚の絵も世界に同じ塗り方をしていない、一つの作品となった。

色についても事前に学習したが、この実習には特に細かい指定はしなかった。

4. アニメーション作成②

できあがった絵をスキャナでパソコンに取り込み、動画編集ソフトで番号順に並べていく。一枚一枚の絵の時間を決める。一枚の時間を短くすれば動画はなめらかな映像になるが、絵が切り替わるのが早すぎて、自分の作品がどこに出てくるかわからないまま終わってしまう。逆にゆっくりしすぎると映像が止まって見えてしまうので、適度な速さを決めるのに苦労した。

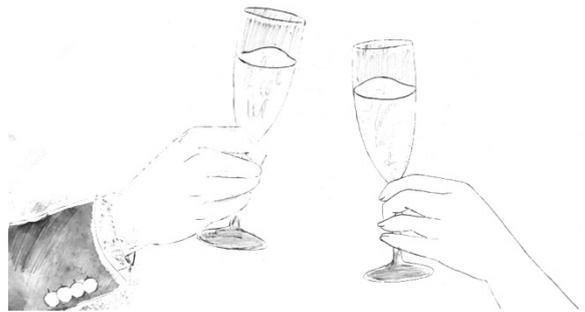
音楽は映像に合うように、全日本吹奏楽コンクール課題曲の作曲等で有名な田嶋勉氏に依頼し作曲していただいた。



5. おわりに

完成した映像を、予餞会（3年生を送る会）で全校生徒に披露した。自分の作った絵が出るのは一瞬だが、その一瞬でも自分の作品がみんなの作品とつながって一つの作品として完成したことに感動していた様子だった。

また、一つのことを成し遂げるにはたくさんの人の協力が必要であるということも感じ取ってもらえたと思う。



引用・参考サイト

- (1) シンエイ動画株式会社
「アニメーションができるまで」
<http://www.shin-ei-animation.jp/animation/>
- (2) Google で、もっと
ブラウザでアニメーションをつくろう
<http://www.morewithgoogle.jp/tabplay/>